

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・ 県民生活・ 産業班	村川 有紀子  渡邊洋平	018- 860- 3313	女性と若者が輝く秋田づくり	①女性の視点を活かす商品づくり:商品やサービスの新商品開発等において、女性消費者の意見を取り入れる機会を提供し、売り上げ増加や販路拡大を促進すると同時に、女性の多様な活躍の場を提示する。 ②若者の定住促進:地域おこし協力隊のスキルアップや起業等に要する経費を助成し、退任後の地域への定着・定住を促進する。	1,297,567	委託・ 直営	①女性の視点を活かす商品づくり:女性ならではの視点を活用したい事業者の商品やサービスの新商品開発等について、モニタリング調査を実施した。 ・対象事業者…管内で起業を目指す者または起業後5年以内の者を3者選定 ・モニター …20代から50代の女性30名 ②若者の定住促進: ・補助対象者:地域おこし協力隊4名 ・補助対象経費:試作品製作費、先進事例調査費など	①女性の視点を活かす商品づくり:管内事業者、女性消費者 ②若者の定住促進:地域おこし協力隊	平成28年4月1日	①女性の視点を活かす商品づくり:2商品、1サービスについて、女性消費者より意見をいただき、商品開発・改良に活かすことができた。 ②若者の定住促進:事業の活用が自らの任期後の姿を考えるきっかけとなり、定住に結びつけることができた。	①女性の視点を活かす商品づくり:当事業の成果を機会を捉えて紹介することで、女性の多様な活躍の場を広げる機運を醸成する。 ②若者の定住促進:現役協力隊と任期を終え定住に結びついたOB等との交流の場を設けながら、定住に向けた支援を継続する。	
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日						平成29年5月16日			
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・ 県民生活・ 産業班	宇佐美 元氣	018- 860- 3313	ユタカな地域へ!秋田やんぐびじょん発進事業	大学生の地域への愛着を育むとともに、地域の活性化を図るため、大学生と地域活動団体とのマッチングを支援する。	173,238	直営	・大学生と地域活動団体の交流会の開催 ・マッチングした活動の報告と交流を深める「若者フェスタ」の開催	県	大学生、 地域活動 団体等	平成28年4月1日	卒業後も県内での地域活動を希望する学生もおり、学生の本県への愛着を深めることができた。	地域活動団体と比べて、地域貢献活動を希望する大学生が少なく、マッチング件数が伸びていない(H28:3件)。1～2年生などの掘り起こしや事業の周知を図る必要がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・ 県民生活・ 産業班	宇佐美 元氣	018- 860- 3313	新規高卒者就職促進 セミナー開催事業	就職を希望する高校生の地元就職の促進と、就職後の早期離職防止のため、魅力ある地元企業の情報を提供し、企業への関心を高める。	216,000	直営	新規高卒者・中小企業等就職促進セミナーの開催 ・きらりと光る中小企業の紹介 ・経営者や若手社会人からのメッセージ ・採用予定企業と生徒との個別の情報交換会 など	県、秋田商工 会議所、ハ ローワーク秋 田	高校生、 進路担当 教諭、中 小企業	平成28年4月1日	多数の生徒や企業の参加により、高校生の地元企業への理解を深めることができた。また、生徒等からのアンケート結果では非常に満足度が高くなっている。	進路選択前の高校1・2年生が、魅力ある地元企業への関心や県内での就職イメージを早い時期から持てるよう、セミナーの前倒し開催を検討するとともに、県教育委員会等との連携により、更に多くの生徒の参加を促していく。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
建設部	菅原 純	企画・建設課	企画監理班	清水陽子	018-860-3432	建設業の担い手確保事業	建設業の魅力発信と就職後のキャリア形成を示すことにより、新卒者の地元建設企業等への就職促進と若手技術者の確保を図る。	280,800	直営	・現場見学会の開催 ・建設業の魅力発信パンフレットの作成・配付	県	管内高校生及び保護者	平成28年4月1日	現場見学会を通じ、管内の生徒に対して建設業の理解を深めることができた。さらに、パンフレットを保護者へ配付することによって地元建設業への就職の後押しをしてもらうことが期待出来る。アンケート結果では9割以上の生徒が、建設業に対して興味をもつきっかけになっていることが把握されるなど、事業効果が確認されている。	管内の建設会社は現場監督となる技術者だけではなく、オペレーター等の技能者も不足している。そのため、今後は土木・建築に関する高校以外も視野に入れながら、幅広く活動を進めていく予定である。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・県民生活・産業班	安杖千佳子	018-860-3313	観光資源の魅力アップ支援事業	管内への誘客を促進するため、アドバイザーの派遣や研修の実施等により、地域の観光資源の魅力アップを図る。	776,977	直営	・食品加工アドバイザーを派遣して加工食品の開発・改良を支援した。 ・管内スタンプラリーの実施 ・観光案内人交流会の開催	県	管内の食品事業者、県民、観光案内人	平成28年4月1日	食品事業者ごとの課題に対応して、きめ細かくアドバイスをを行うことができた。また、スタンプラリーによって、再訪の促進につなげることができた。受地側の魅力アップという面では、観光案内人を対象とした研修会を開催して、技術等のレベルアップを図った。	食品加工アドバイザー派遣については、即商品化に結びつけることは難しいことから、本事業をきっかけとし、開発・改良の継続・発展を支援していく。また、スタンプラリーについては、ランチのみならず、観光施設等にも対象を拡大し、PR強化に努めることとしている。観光案内人については、広がりを持たせることが重要であることから、全県規模の研修会へ引き継ぎたい。
				村川有紀子		平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・県民生活・産業班	安杖千佳子	018-860-3313	おいでよ男鹿半島！魅力発信事業	隣県や首都圏からの誘客を促進するため、民間団体等と連携した観光プロモーション等により管内の観光物産情報を発信する。	607,926	直営	・湘南地域における観光プロモーション及び物産フェアの開催 ・隣県をターゲットとした観光プロモーション活動	県	観光客	平成28年4月1日	湘南地域における観光プロモーション及び物産フェアにおいては、新たに秋田犬とのふれあいを実施したことで、反響が大きく、多くの方々から立ち寄っていただき、持ち込んだ商品はほぼ完売とすることができた。また、隣県でのプロモーションを実施し、男鹿半島をはじめ管内の魅力発信した。	湘南地域における観光プロモーション及び物産フェアについては、今後の展開について、関係基礎自治体等の関わり方が課題となっている。隣県観光プロモーションでの情報発信については、引き続き隣県等を中心としてプロモーションを行うこととしているが、より効果的に実施するため、県観光連盟との連携により実施することとする。
				村川有紀子		平成28年4月1日～平成29年3月31日									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
農林部	山田宗弘	農業振興普及課	担い手・経営班	平川謙一	018-860-3413	新設大規模農業法人育成事業	新設大規模農業生産モデル法人の経営確立と部門別運営管理システムの構築を行い、他農業法人への波及を図る。	295,423	直営	公認会計士による経営管理指導・税務指導を行った。また、GAP指導員より法人としてのリスク管理や労務管理について講習会を実施した。	県	新設大規模農業生産モデル法人	平成28年4月1日	個人と法人の経営管理の違いや、雇用(パート含む)を多く必要とする本法人においての注意点等について学ぶことで、モデル法人の経営確立等に寄与することができた。	今後も計画的な管理運営ができるよう細かな管理支援が必要。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月16日		
農林部	山田宗弘	農業振興普及課	担い手・経営班	松本真一	018-860-3413	地元農産物を活用した加工品開発推進事業	大湯村の「未来づくり協働プログラム」の一環として開発支援を行った新商品について、更なる販売促進に向け、商品のブラッシュアップ、販路開拓に向けた商品PR方法を学ぶ。	146,376	直営	フードコーディネーターを講師として研修会を行った。 ①新商品をブラッシュアップ ②新商品の販路拡大に向けて～ターゲットの絞り込み方法と商品PR方法について～	県	新商品開発法人	平成28年4月1日	商品の販路拡大に向けて、販促活動よりも「ニーズの把握」が重要であることを会員が学ぶことができた。	ニーズ把握に向けて、イベントなどに試食アンケートを行う必要がある。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・県民生活・産業班	安杖千佳子	018-860-2213	秋田市民市場を中心とした「食と情報のたまり場」形成事業	秋田市民市場を、県民や来訪者にも対応した「食と情報のたまり場」として機能強化するため、「秋田市民市場活性化事業実行委員会」の取組に参加する。	201,134	負担金・直営	観光客・ビジネス客が買い回りしやすい環境整備に向けた事業を実施した。 ・「なんもだートレイ」製作 ・参加店舗判別用提灯の製作 ・案内パネル製作 ・チラシの製作	秋田市民市場活性化事業実行委員会	県民	平成28年4月1日	市場での買い回りを促すため、案内パネルや参加店舗判別用提灯を設置するとともに、「なんもだートレイ」を製作・貸し出しすることで、買い回り客であることを、店舗側からも判別しやすい環境とした。	実行委員会は今年度で終了となるが、買い回りは、市場で継続していくこととしており、県としても、PR等の面で今後も継続支援していくこととしている。
				村川有紀子		平成28年4月1日～平成29年3月31日							平成29年5月16日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・ 県民生活・ 産業班	安杖 千佳子	018- 855- 3313	「秋田の酒と食」のふるまい事業	県外客が多く訪れる秋田竿燈まつり開催期間中に、秋田の地酒のふるまいを行い、秋田ファンの拡大と秋田への再訪を促進する。	180,983	直営	・秋田の地酒のふるまいを実施 (8/5.6 秋田駅東西連絡自由通路)	県	観光客	平成28年4月1日	県外客が多く集まる祭りの機会を利用してふるまいを実施したことで、多くのお客様に秋田の地酒の美味しさを味わっていただくことができた。お客様からは、購入場所等の問い合わせが多く、県産品の販売促進にもつながった。	秋田の地酒のふるまいについては、県外客に好評だったことから、次年度は他の振興局と連携して、銘柄を拡大して実施することとしている。
				村川 有紀子		平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・ 県民生活・ 産業班	佐々木 源	018-860- 3313	環八郎湖・水の郷プラットフォーム強化事業	八郎湖及び流域の自然再生活動を自立的かつ持続的なものとするため、地域住民が主体となった活動への支援や、子どもたちへの環境教育等を行う。	865,829	負担金・ 直営	・八郎湖にかかわる住民団体、振興局、市町村(八連協)で組織する実行委員会へ参画し、各種イベントを実施した。 ・秋田大学「地域連携プロジェクトゼミ」と連携し、ワークショップを実施した。	県	八郎湖流域の住民団体、地域住民	平成28年4月1日	・実行委員会として八郎湖の環境保全に関する各種イベントを実施することにより、地域住民の環境意識の向上を図ることができた。 ・秋田大学と連携して八郎湖での環境保全活動をテーマとしたワークショップを開催することにより、参加者が自分たちができることはなにか考えるきっかけになった。	より多くの住民・事業者の方々と、第2期湖沼水質保全計画の中で掲げる長期ビジョンを共有できるようにしていく。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
総務企画部	成田光明	地域企画課	企画・ 県民生活・ 産業班	近藤紀行	018-860- 3313	ヤマビル被害対策事業	生活域に拡大しつつあるヤマビルの吸血被害を防止するため、各市町へ薬剤配布を行うとともに、各関係者の取組などについて情報共有を図る。	695,088	直営	・ヤマビル防除を実施している4市町(秋田市、潟上市、五城目町、井川町)を支援するため、使用する駆除剤の一部を購入・配布 ・自然保護課、局、各市町の取組の情報共有	県	地域住民	平成28年4月1日	ヤマビル防除を実施している4市町が使用する駆除剤の一部を購入・配布することにより、効果的な駆除の支援をすることができた。	ヤマビルの生息域において、ヤマビルを根絶することは不可能である。しかし、地域住民の適切な予防対策により吸血被害は減少していることから、今後数年で各市町村単独での対策に移行することを目指す。
				村川 有紀子		平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
福祉環境部	永井伸彦	企画福祉課	調整・障害 者班	佐藤 ひとみ	018-855- 5171	秋田地域認知症施策推 進事業	認知症施策の取組を促進 するため、医療・介護等の有 機的な連携を推進すると ともに、地域住民に対し認知 症の理解促進を図る。	80,241	直営	・市町村実務担当者を参集 した担当者連絡会議(7/28) を開催した。 ・市町村・認知症疾患医療セ ンターとの共催により、地域 住民向けの認知症研修会 (11/5)を実施した。	県	市町村職 員、地域 住民等	平成28年4月1日	市町村と福祉環境部が、秋 田地域の認知症施策の現 状について情報共有すると ともに、課題等について共 通認識を持つことができ た。 また、地域住民に対して は、認知症についての理解 促進の他、認知症疾患医 療センターの機能や役割を 広く周知することができた。	地域住民の認知症への 理解をさらに促進するた めには、継続性のある普及 ・啓発事業に取り組む必要 がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
福祉環境部	永井伸彦	健康・予防課	健康・予防 班	市川 由佑子	018-855- 5170	心の健康づくり市町村支 援事業	自殺者の減少を図るため、 地域における心の健康づく りボランティアの養成や活動 推進研修会を開催し、市町 村における自殺予防対策を 支援する。	422,468	直営	・井川町メンタルヘルスサ ポーター養成セミナーの実 施 (8/1、8/24 参加者延べ44 名) ・心の健康づくり活動推進研 修会の実施 (6/27 参加者82名) ・こころはればれ通信の発 行 (8,000部 年4回発行)	県	管内住民 及び心の 健康づく りボラン ティア	平成28年4月1日	心の健康づくりボランティア の養成講座を受講し地域 で活動しているメンタル ヘルスサポーターなどのボ ランティアは年々増加し380 人になった。メンタルヘル スサポーターは、各地でサ ロンやキャンペーン等の活 動を実践している。管内の 自殺率は、管内で最も自殺 者が多かったH14年と比較 すると約半減した。 市町村の枠を超えた活動 推進研修会終了後のアン ケートでは、大変参考にな ったという意見が多く、好 評で次年度継続開催の要 望があった。	これまで県主導で養成して きた地域のボランティア養 成であるが、管内6市町村 において活動内容も様々で ある。人材育成に取り組ん でいる市町村とそうでない 市町村との間で地域にお ける活動にも差が生じてき ている。住民のより身近な 市町村で心の健康づくりの 人材育成や地域課題にも 活動を拡大していくことが 期待される。 そのため今後は人材育成 事業未実施市町村などの 支援に力を入れていく必要 がある。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									
福祉環境部	永井伸彦	環境指導課	環境・食品 衛生班	八柳 潤	018-855- 5173	「めざせクリーン秋田大作 戦」啓発事業	不法投棄などを防止するた め、子どもたちへの学習・啓 発活動として、管内の小 学生に対して環境保全に係 る学習会を開催する。	19,058	直営	管内の小学4年生を対象 に、ごみの分別やリサイクル をテーマとした環境学習会 を開催した。 7/1 男鹿市立船越小 56名 8/30 井川町立井川小 37名 9/26 湯上市立追分小 63名	県	管内の小 学4年生	平成28年4月1日	環境学習会を開催した小 学校3校では、児童・教職 員にとって目新しい情報、 話題に触れる機会になった ことから好評を得た。	環境学習会については、今 年度までに開催した8校を 除く管内8校(H28年度未現 在)に対し、継続して実施し て参りたい。 ごみの適正処理に関する わかりやすい情報提供の 方法をさらに検討していく。 教材として、廃棄物をリサ イクルした製品を取り入れ ることにより、ごみ減量化 の意識をいっそう高める内 容とする予定。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
農林部	山田宗弘	森づくり推 進課	林業振興班	佐藤博美	018- 860-3381	夕日の松原クリーンア ップ事業	「夕日の松原」の環境美化を 図るため、地域住民・企業 等との協働によるクリーン アップ活動を実施する。	296,601	委託・ 直営	・4/27(水)参加関係団体に よる担当者打合せ会議を実施 ・6/25(土)に「夕日の松原」ク リーンアップ事業を予定して いたが、悪天候により中止 し、事前に把握していた不法 投棄ごみを処分した。	県	企業・団 体・地域 住民	平成28年4月1日	毎年継続してクリーンア ップを行うことにより、海岸松 林の保全推進に貢献して いる。	・海岸松林の機能維持のため、継続した取組が必要である。 ・併せて、「夕日の松原」を 未来の財産として守り育て るため、新たに地域の子ど もたちへの普及啓発活動 を実施することとしている。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		
建設部	菅原 純	用地課	管理班	中山礼子	018-860- 3452	協働による道路河川等の 維持管理活動広報拡大 事業	道路河川への愛着、利用者 マナーの向上、良好な道路 河川の環境づくりを促進す るため、企業と行政の協働 により道路河川の美化・維 持管理活動を行う「秋田地 域アダプト・プログラム」に参 画している協働団体を広く県 民に広報し、活動の拡大を 図る。	461,930	直営	・道路河川協働維持管理広 報パンフレットの作成 ・活動時の作業用としての 軍手の購入 ・活動PR看板の製作設置に かかる補助	県  活動団体	道路河川 の利用者	平成28年4月1日	活動状況の周知により、実 施団体の増加・活動の拡 大につながっている。ま た、広報誌等への掲載や 活動看板設置への助成に より、広く企業や県民に広 報できており、活動の拡大 に寄与している。	住民要望の多様化する中 で、協働による活動制度の 推進・周知や町内会等の 地域住民団体による取組 により、道路河川の維持管 理を適切に実施することが 必要である。
						平成28年4月1日～ 平成29年3月31日							平成29年5月16日		